

『到津の森と木の動物たち ～ チェンソーカービング 林隆雄展 ～』

今年の春の企画展は、林隆雄氏による、
豪快、そして、繊細なチェンソーカービング。

チェンソーカービングとは、チェンソー（木を切る道具）だけで、木材（主に丸太）から、彫刻作品を制作するものです。

そして、企画展のために、丸太から、動物たちが飛び出してきました。

題して『到津の森と木の動物たち』。飛び出してきた木の動物たちは、姿見の池周辺を中心に、園内各所に展示します。

- 期 間 5月31日(木) まで 9:00～17:00
※5月3・4・5日は19:00まで開園
- 開催場所 姿見の池周辺を中心に園内各所
- 参加費 無 料 ※入園料は必要です

～実演決定～

- ★開催日 : 4月22日(日)
- ★時 間 : 13:00～14:00
- ★場 所 : 芝生広場

林隆雄氏が、チェンソーだけを使って、一本の丸太から動物を生み出す！なかなか、ご覧いただけないチェンソーカービングです！どんな動物が飛び出してくるかな？

ぜひ、ご覧にお越しくださいね。

詳しくは、HP もしくは到津の森公園(651-1895)まで、お問い合わせ下さい。

森の仲間たち



「到津の森公園」公園事務所
北九州市小倉北区上到津 4-1-8
Tel 093-651-1895 〒803-0845
<http://www.itozu-zoo.jp/>

森のお便り 4月号 2018年

発行・編集 「到津の森公園」「森の仲間たち」18年4月1日発行 通巻182号

★森のおはなし探検隊★

お子様から大人の方まで楽しめるプログラムを月替わりで開催中の～森のおはなし探検隊～

今月のテーマは「到津の森で野鳥観察」です！

春の到津の森で、一緒に野鳥を探してみませんか？

どんな野鳥がいるのかな？

さあ、みんなで探しに出掛けましょう

たくさんのご参加をお待ちしています！

☆日 時：4月15日(日) 10:00 から 1時間程度

☆集合場所：「姿見の池」前集合

☆参加費：無料（別途要入園料）

★キーパーズトーク「ミーアキャット編」★

飼育スタッフが担当動物のおはなしをするキーパーズトーク

今回は、「ミーアキャット編」どんなおはなしが聞けるかな？

直立する姿がお馴染みのミーアキャット。この直立の理由は、天敵の見張りや太陽で体を温める意味があります。

そして、ミーアキャットは、私たちと同じように、「日の出とともに活動を開始して、日の入りには、地面に掘った巣穴に帰る。」という規則正しい生活を送っています。そんなミーアキャットのおはなしを聞いてみませんか。

飼育スタッフに質問も OK です！

日 時：4月の土日・祝日 11時30分～11時45分頃

開催場所：「草原の世界」ミーアキャット前

花暦 卯月

今は弟の家族と余生を過ごす母の本棚の和綴の本が目
に留まりました。取り出してみるとそれは同人誌の趣きの植
物愛好家の薄い冊子を一年分6冊ずつ母手ずから丁寧に
綴じたもの(「植物手帳」植物手帳の会)。昭和50年代のさ
して上質とも思われない用紙が使われていますが、傷みもな
く大切な図鑑と並んでいるのです。めくっていると小さなコ
ラムが目につきました。

いわく「六道木物語」。東京の青山練兵場(現明治神宮外
苑)にあったヒツバタゴは、有名な牧野富太郎博士がその
花の研究資料とする為学生を連れ、暮夜ひそかに一枝を
採集したとのエピソードが記されています。その後枯死し、
二代目ヒツバタゴの元の所在地が六道の辻だったことか
ら「六道木」といわれたとの事。昭和50年代には外苑内に
250本ものヒツバタゴが植栽されて、観賞会なども開かれ愛され続
けているようです。

天然のヒツバタゴは、少数の地域 長崎・長野・愛知などにわずか
に分布し(不連続分布)、20万年前の泥炭化されたものが発見され
たりと満開時の降り積む雪のような清らかな美しさだけでないロマン
を感じさせ、人を惹きつけます。北九州でも昔、対馬から嫁がれた
女性により一本植えられていたのが後に伐採され、市内にヒツバタ
ゴはなくなったという物語りが、巷間に伝えられていました。今では
街路樹や庭木としてよく用いられ、特に戸畑区天籟寺の並木は見
事。丈夫でも成長の遅いタイプのヒツバタゴが丈高く枝を広げ、可
憐な花びらが舞い散ります。

そしてゴールデンウィーク頃「到津の森公園」でも北ゲート前のア
プローチに花開きます。細い花びらが4枚。いいえよく見ると根元は
合体していて、4深裂ということになりますね。落葉樹の為、新緑の
葉は美しく、白く繊細な花は群れ咲き、そして花の底、葉の付け根
は紅を帯びる花。辺境の地に生きる植物独特の人の心を惹きつけ
る不思議な力を持つヒツバタゴとは少し大袈裟ですが、必見の値
打ちあり。お見逃しなく。

文:花咲くおばさん

森のなかま・オシドリ

オシドリの新しい出会い

冬の寒さとお別れし、到津の森公園ではミモザやサクラが咲
きはじめました。

そして春は出会いの季節。10月末に東京都井の頭自然文化
園からやってきた20羽のオシドリたちは、11月にバードケ
ージに移動しました。

初めの頃は20羽かたまってうろうろしていましたが、今や
バードケージのあちこちで(一年限りの)運命の相手を探し求
め、血気盛んになっています。オシドリの産卵時期は4月から
7月頃で、他のカモとは違い、野生種では樹洞(じゅどう)の
中に巣を作ります。バードケージでは代わりになる巣箱を設置
しました。

しばらくしてオシドリたちが様子を見にきました。巣を決め
るのはメスが主導権をにぎっているため、中をのぞいて吟味し
ています。オスはこの時期、銀杏羽(いちようばね)と呼ばれ
るオレンジ色の羽や、後頭部の冠羽(かんう)など羽色が特に
きれいになり、メスに猛アピールします。

うまくいけばペアができ、もしかすると、かわいい雛を見る
ことができるかもしれません。楽しみに見守りたいと思いま
す。



飼育展示係 松井 遥